

## English Challenge(2024.12.20)

本校の2学期の終わりには、毎年英語科のネイティブの教員が主催する”English Challenge”というイベントが開催されます。中学1～3年の各クラスから選抜された代表が、英語の授業で取り組んできた成果を発表して競い合います。

中学1年生は、「私の大切なもの」というテーマでスピーチを行いました。紹介するものを実際に見せながら説明する、欧米の学校でよく用いられる”Show and Tell”という形式です。英語を流暢に話すだけでなく、ジェスチャーや表情をうまく使い、聞き手に伝わるように工夫する必要があります。また、聞き手を惹きつけるジョークを織り交ぜるよう、生徒たちは事前に授業で指導されていました。英語圏の人々にどんなジョークがウケるのかを考えるのも、異文化への理解を深める学びにつながりそうです。大勢の観客の前で発表する緊張もあったでしょうが、各クラスの代表は皆さすがの英語力・表現力で堂々と発表していました。

中学2年生は、英語劇を披露しました。「Success」というテーマを含む「The Big Tournament」というお題が与えられ、グループごとにこのお題を自由に解釈して劇を作りました。各クラス代表の劇は、思わず笑いが起こるユーモラスな場面設定や、観客の予想を裏切るような意外な展開があり、生徒たちが工夫を凝らして劇を作り上げたことが伝わってきました。また、練習の甲斐もあって、皆流れの中で自然にセリフを喋っていました。

中学3年生は、英語でプレゼンテーションを行いました。聞き手に「任意の物事をする方法」を伝えるという課題で、生徒たちは思い思いのテーマを決め、協力してプレゼンを仕上げていました。各クラス代表のテーマは、「自家製アイスクリームの作り方」「アボカドの育て方」「ペットとしての子豚の飼い方」「絞り染めシャツの作り方」で、どれも独創性があり興味を引くテーマ・内容でした。中1・中2と比べてもより抽象的で複雑な内容を、画像とセリフで巧みに説明していました。

プレゼンテーションとは別に、3年生の学年代表がスピーチも行いました。「良い友人を作るには」という学生にとって身近なテーマで、中学生としての実感に根差して、良き友を得るためにいかに振る舞うべきかを述べてくれました。英語のスピーチで、話術だけで聞き手を惹きつけ、説得力のある主張を展開する様子には脱帽でした。

その後、各学年の選抜メンバーから、歌と踊りの発表がありました。普段の授業で、生徒たちはネイティブ教師が選んだ英語の歌ー古典的な名曲から現代のポップミュージックまでーを練習し、友人とグループを作って発表します。その中で、特に素晴らしい発表をしたグループが各学年から選ばれ、English Challengeの舞台上で練習の成果を披露しました。クラスメートの見ている中で歌って踊るのはなかなか勇気がいることですが、中1から中3までの代表は皆、堂々とした演技を披露していました。

最後に、毎年恒例の、英語教員らによるサプライズの発表が行われました。今年は、「大きな赤ずきんちゃん」という、あの誰もが知る童話を現代風にアレンジした劇が披露されました。いつもは真面目な先生たちが色とりどりの衣装を着てコミカルな役を演じる様子に、生徒たちは歓声を挙げていました。

普段の授業とは一味違う、この学校ならではのEnglish Challengeは、生徒にとって、英語を使って相手を惹きつけること、自分の想いを表現すること、そして何より、英語を楽しむことを学ぶ、素晴らしい機会になったのではないかと思います。



中一スピーチ



司会・実行委員の生徒たち



中3プレゼンテーション



ソングチャレンジダンス 左 中1 右 中3 下 中2



教員による演劇

表彰式